

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第91号（通巻第158号）

2010年9月30日発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp
[URL: http://www.cer.yamanashi.ac.jp/](http://www.cer.yamanashi.ac.jp/)

※ このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、変更しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

■ 後期教育ボランティアガイダンスのご案内

本センターでは、事業支援プロジェクトー教員志望大学生による支援事業として、教育ボランティア活動を実施しています。この事業にかかわる学生を対象にした、平成22年度後期の教育ボランティアガイダンスを下記のとおり開催いたします。

受け入れ先の教育委員会、各学校・機関の担当者が活動内容等の説明を行います。今回のガイダンスから教育ボランティア学生運営委員会が運営を担当いたします。

多くの学生の皆さんの御参加をお待ちしています。

日時：10月6日（水）16:00～17:30 及び 7日（木）12:05～12:55

場所：N-12教室

■ 「第2回期間採用者等研修」のご報告

平成22年度第2回期間採用者等研修を、8月4日（水）に実施しました。当日は、小中高の期間採用の先生方と学生合わせて77名が参加しました。

当日の内容は次のとおりでした。

研修1（教科等指導法研修）：校種別研修

小中学校「特別支援教育について」

高等学校「高校の教科指導について」

研修2（生徒指導法研修）：校種別研修

小中高とも「児童・生徒理解生徒指導の工夫」

特別研修：「文章力・言語表現力」

参加者の事後のアンケート結果をみますと、どの研修内容についても90%以上の参加者から「研修会は参考になった」との回答をいただきました。

また、アンケート回答者の半数以上が2回以上の参加ということで、この研修が定着している様子が伺えます。今後も充実した研修になるよう、努力していきます。

アンケートに寄せられた意見の一部を紹介いたします。

- ・正規でないとも基本的な内容を教えて頂く機会がないのでとても勉強になりました。
- ・実践例が詳しく分かりとても参考になりました。
- ・毎回とても勉強になっています。教師として人として、こう生きていこう、と自分の行き方に関しても考えさせていただいた気がします。
- ・まだ大学1年ですが、今からでも出来そうなこともあったのでとても良い機会になりました。



■ 第77回国立大学教育実践研究関連センター協議会のご報告

第77回国立大学教育実践研究関連センター協議会が、9月17日(金)に、三重大学 総合研究棟 II メディアホールにおいて開催されました。山梨大学からは、嶋田、早川、成田の3名が参加しました。総会では、平成21年度収支報告及び会計監査報告、平成22年度予算案の審議、承認等の議題の後、協議会規約の改正が議題となりました。これは、全国の教育実践関連センターの組織、名称等が多様になり従来の教育実践総合センターを前提とした規定が現状とそぐわなくなってきたことによります。審議の結果、原案どおり改訂されました。全体講演は、NPO法人 パンゲア 理事長の森 由美子氏により「多文化共生の時代における ICT 児童国際交流 —三重大・京大・マレーシアサラワク大学事例紹介—」という題目で行われ、国際交流やネットワーク等の活用に関する興味深い実践にふれることができました。

全体会では各大学のセンターの現状と将来計画が、各校における教員養成・教員研修・教職大学院とからめて情報交換・討論が活発になされました。特に、横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター、秋田大学教育文化学部附属教育実践研究支援センター、京都教育大学教育創造開発機構 教育臨床総合センター、岡山大学教師教育開発センターからは組織の変更等について詳しい説明がありました。山梨からは、教職大学院とセンターとの 関連に関して説明しました。他に、山梨のセンター研究紀要の電子化の現状を紹介しました。具体的には紙媒体・CD-ROM 媒体の発行は中止し、pdf ファイルによる Web 版のみを発行していることと、掲載論文の題目・執筆者名・要旨等を印刷した概要リーフレット(紙媒体)の発行・配布していることを紹介しました。また、センター協議会のメーリングリストの運営を山梨で行っていることも紹介しました。

部門研究会では教育実践・教師教育部門、教育工学・情報教育部門の合同分科会に参加し、教育の情報化懇談会 教育の情報化ビジョン、総務省 ICTを利活用した協働教育推進のための研究会、総務省 原口ビジョンII ICTによる協働型教育改革の実現とフューチャースクールの全国展開 と教育クラウド、文部科学省 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策、管理職のための戦略的なICT活用マネジメント研修（JSLICT）についての情報交換・センター協議会とのかかわりに関する討議に参加しました。

■ 夏季休業中の教員研修等への協力についてご報告

教育実践総合センターは、期間採用者等研修，若手教員研修会，特別支援教育基礎研修，教育臨床研究会等のセンター主催の教員研修等を開催しており，教員免許状更新講習の講師も務めておりますが，学外の研修にも協力しました。教員研修等への協力状況は以下の通りです。

- 7月5日 山梨県高等学校教育研究会教科情報部会第1回理事会・総会にて情報提供。山梨県立甲府城西高等学校。参加者：県内情報科教員25名（成田）。
- 7月7日 第1回甲斐市教育委員会指定事業研究推進委員会「電子黒板を活用したわかりやすい授業推進事業」の活動の一環として双葉東小学校校内研究会で指導助言（成田）。
- 7月10日 放送大学山梨学習センター公開講座講師。演題「ストレスの心理学」参加者：65名（谷口）。
- 7月18日 教員免許状更新講習講師。演題「教育の最新事情」。参加者：89名（谷口）。
- 7月21日 東京都立久留米特別支援学校府中分教室わかば教室校内研究会講師。演題「入院期間の短期化に伴う分教室転入時の児童・生徒との関わり方とアセスメント」。参加者：特別支援学校教諭20名（谷口）。
- 7月26日 山梨県総合教育センター高校数学授業改善研修会。研修テーマ「学習指導要領改訂と統計教育カリキュラム・教材の動向」。参加者：高等学校数学科教員12名（成田）。
- 7月29日 東京都新宿区立新宿養護学校訪問教育部校内研究会講師。演題「入院中の子どもの心理」。参加者：特別支援学校教諭10名（谷口）。
- 8月3日 山梨県高等学校教育課程研究集会全体会講演。演題「情報社会の進展と学習指導要領」。参加者：県内高等学校教員150名（成田）。
- 8月4日 山梨県教育委員会教育職員免許法認定講習特別支援学校教員講習講師。演題「病弱者教育総論」。参加者：60名（谷口）。
- 8月5日 山梨県教育委員会十年経験者研修山梨大学講座講師。演題「やる気を育てる心理学」。参加者：十年経験者研修該当教員64名（谷口）。
- 8月9-12日 学校図書館司書教諭講習「学校図書館メディアの構成」。参加者：県内教員6名（成田）。
- 8月10日 山梨大学高校生への公開講座講師。演題「記憶のメカニズム」。参加者：山梨県内高校生100名（谷口）。
- 9月12日 教員免許状更新講習講師。演題「教育の最新事情」。参加者：23名（嶋田）。

■ 特別支援教育基礎研修のご報告

22年度の特別支援教育基礎研修を本学教育人間科学部附属特別支援学校との共催で8月3日(火)午

前中に開催しました。本学障害児教育講座教授の鳥海順子氏より「山梨県の特別支援教育について」と題してご講義いただいたのち、神奈川県立田奈高等学校教諭の浜崎美保氏を講師にお招きし、「高等学校における『かながわの支援教育』の具体的展開 ー対話による支援 田奈高等学校の実践からー」と題して、高等学校における支援教育という新しい取り組みについて詳しくご講演いただきました。山梨大学学生・県内教員・県PTA 協議会関係者を中心に77名の参加があり、高等学校における支援について多くの視点を学ぶことが出来ました。以下にアンケートに寄せられた感想の一部を紹介いたします。

- ・障害自体をまず理解してその生徒に対して特別ではなく自立していけるように、支援が出来るようになってほしいと思う。現場に出たとき活かせたらと思います。
- ・神奈川県のカリエイティブスクールのような学校が山梨にも必要だと思いました。今日のお話は本当にとっても参考になりました。
- ・「障害のあるなしに関わらず全ての子どもを対象に…」という支援教育の考え方は素晴らしいものがあり、一人一人の子どものニーズに合わせて是非取り組んでいきたいものだと思います。県内の高校でも発達障害の生徒の対応に苦慮していると聞きます。田奈高のように全校体制が出来るようになると良いと思います。
- ・他県ではすすんでいる。山梨では特別支援学校に頼りすぎているのかもしれない。

■ 山梨県教育委員会十年経験者研修山梨大学講座のご報告

附属教育実践総合センター教育臨床部門では、例年、山梨県教育委員会十年経験者研修山梨大学講座のアレンジを行っております。去る8月5日（木）に放送大学山梨学習センターを会場に行われました22年度の本研修も無事に終了いたしました。本年度山梨大学講座では、下記の6講座を開講し、延べ188名の山梨県教育職員の先生方にご参加いただきました。

A 「ワイン・サイエンスへの誘い」(ワイン科学研究センター見学あり)

奥田 徹 (ワイン科学研究センター教授)

B 「教育法規アップデート」

平井 貴美代 (大学院教育学研究科教授)

C 「山梨の水晶とその魅力」

角田 謙朗 (教育人間科学部理科教育講座准教授)

D 「いま見直す食習慣・運動習慣ー生活習慣と健康ー」

宮村 季浩 (保健管理センター准教授・医師)

E 「発達の遅れや偏りのある児童・生徒をどう支えるか？」

渡邊 雅俊 (教育人間科学部障害児教育講座准教授)

F 「やる気を育てる心理学」

谷口 明子 (大学院教育学研究科教授)

■ 研修会講師・研究助言等の「教師等支援活動の実施報告」に関するお願い

附属教育実践総合センターでは、研修講師・地域での講演・研究助言等の教師支援に関する実績の統計をとり、県教育委員会へ報告しております。お手数ですが、教師や保護者・児童生徒・地域の一般の

方を対象とする研修会講師や講演・研究助言等，地域支援活動の実績を附属教育実践総合センターのホームページ上にあります「教師等支援活動の実施報告」にご記入いただく形で送信してください。ご協力よろしくお願いいたします。

■ 「教育相談」の報告書に関するお願い

個別問題に関する教育相談を実施した方は報告書の提出をお願いします。教育相談の実施報告書については随時受け付けております。報告用紙にご記入いただいても、「日付・方法・相談対象・学年・性別・相談者・相談内容」をメールに書き込んでお知らせいただいても、エクセルの一覧表フォーマットにご記入いただいてもかまいません。フォーマットは添付ファイルでお送りしますので、どうぞお申しつけください。

報告用紙は，教育人間科学部総務グループ入口をに入って左手にあるレターケース（総務グループ提出箱）の教育相談専用ボックス（青いラベルです）にあります。提出は随時受け付けておりますので，谷口のレターボックス（教育実践総合センター）にお入れください。

■ 「教育相談室」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

教育相談室（Y-304）をどうぞご利用ください。ご利用に際しましては，事前に教育実践総合センター事務室（J号館4F）にて空き状況を確認の上，ご予約ください。鍵はセンター事務室にあります。利用された場合には，相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。

教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出しております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

これまでのセンターだよりの一部は <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/pub/nl/> で見るができます。